



一月の養豚

「一年の計は元且にあり」といいます。養豚の一年は必ずしも月に始まるとは限りませんが、何事をするにも年の始めに計画をたてるように、年の始めにあたって、一年間の計画をたてましょう。

そして、一年間の計画をたてるといって、堅実に進めてゆくとが大切です。

はじめの計画が、自分の農業経営、あるいは経済、労力などからかけはなれていて、これを押し進めていくことは困難で、途中必ず無理が生じます。相手が生きものであるから、無理を承知して仕事を進めていけば必ず挫折するでしょう。

そうかといって引こみ思案ではいつまでたっても経営の発展は望まれません。

これからの養豚は、二頭の堆肥とり、小便とりの養豚から十頭、二十頭と多頭化してきます。一家の経済に占める比重もだんだん大きくなってきます。

じっくりと前年の経営内容をかえりみて、新しい年のはじめに、新しい気持ちで養豚と取り組むことにしましょう。

着眼点

- 一、年間のエサ、豚の生産更新計画をたてる。
- 二、養豚経営の収支をはじめ、其他経営上の内容を記帳する習慣をつける。
- 三、豚舎の保温に注意するとともに、つとめて日光浴をさせる。
- 四、仔豚については特に防寒設備をすること。
- 五、エサは温湯で調理し、増進に食欲のつとめ

六、堆肥の中に石油缶を伏せておいて、湯をあたるもの一つの方法。

七、講習、講話会などにはつとめて出席し、飼養管理についての研究、新しい技術の体得につとめる。

豚は清潔好きで動物。従来豚はきたない所が好きで動物と考えられ、豚は不潔であるべきだとされてきたが、これは、根本的な誤りで、完全な製肉機械として豚を働かせざるを得ない。毎日念入りな手入れが必要で、とかく寒くなると、敷ワラのとりかえを怠りがちになって、「既肥の上」に豚が住んでいる」といった豚舎をよく見かけます。

豚舎を積重ねておけば熱を出すから豚は温かいだろうと安易な考えをする人もいますが、これは大きな誤りです。なるほど寒い朝豚舎へ行って豚を起すと、豚舎の寝ていたところから湯気が出て既肥の上は温いように見えますが、実は反対なのです。既肥の湿気があがって豚の体温を取っているのです。このために折角与えた高価なエサが、豚の保温のために消費されて肝腎の肉にならないのです。また既肥の酸酵で常に炭酸ガスを発散して肥育を妨げます。

寒いとき程常に乾いた敷ワラと取かえて体温の消耗を防ぎましょう。

仔豚の管理
成豚は寒さよりも、むしろ

昭和39年産米売渡数別農家戸数

郡落名	米の売渡					合計
	1俵 99俵	100俵 ~199	200俵 ~249	250俵 ~299	300俵 以上	
池瀬	20	4				24
瀨望	78	3	1			82
岩曾	37	4				42
樋尻	9	4	1			14
子島	15	3	4	3	6	31
保本	21	16	4	2		43
ケ谷	3	4	5			12
北野	3	9	3			15
西井	1	14	4	1		20
中上	38	38	7			79
島上	5	7	3			15
長島	1	3	3	1		8
西根	5	7	6			18
横谷	10	10	4			24
新谷	4	17	4	2		27
油谷	3	19	1			23
高畑	2	7	3	4	1	22
原田	3	4	11	17	6	34
津雲	4	11	4	5	5	21
高岡	5	15	4	4	2	24
納区一	9	4	3	3	1	14
和納区二	17	1	9	1		22
和納区三	16	9	6			26
和納区四	11	6				17
和納区五	18	13	1			33
和納区六	18	9	5			33
和納区七	31	8				39
和納区八	15	7				22
39年計	474	286	100	49	15	924
38年計	508	283	103	35	9	938

米の売渡

昭和三十九年産米の政府売渡数量を規模別に分けて農家の備具合を診断してみます。

二百俵以上は十五戸

「一年の計は元且にあり」といわれます。昨年、米の売渡数量の内容を検討し、村の状況を知り、自分はどこに位置しているかを認識して、今年度の営農の指針にしましょう。

「他産業に均衡した農業」といふことをよく耳にしますが、そのほとんど全部を米にたよっている岩室村の米の売渡数量は直接村の農業収入につながっています。

これを昭和三十八年産米と比較すると、売渡農家数は三十八年が九三三戸、三十九年は九二四戸で、一四戸減少し、年々農家戸数は減少しています。

売渡数量では三〇〇俵以上の農家が三十八年九戸、三十九年一五戸と六戸の増加。

二五〇俵から二九九俵の農家は三十八年三五戸、三十九年は三二戸で、三十八年より三戸多くなっています。

これらの実績からいえることは、村の農業も年々農家戸数が減少し、経営規模の拡大が遂次進められて、中、小農家は農家への委託耕作が増えているということです。

希望の本があつたらどうぞ

○本の名
○発行所
住所
氏名

特別会計 昭和38年度 岩室村広域簡易水道歳入歳出決算

歳入					歳出							
科	目	予算現額	収入済額	収入未済額	科	目	予算現額	支出済額	歳出合計に対する割合			
第1款	使用料及び手数料	6,805,254	7,187,016	47,777	第1款	水道事業費	6,247,914	5,003,779	53.2			
第2款	受託工事費	439,500	226,294		第2款	公債費	3,925,320	3,903,689	41.5			
第3款	分担金及び負担金	751,250	1,019,550	81,500	第3款	予備費	32,870	0				
第4款	繰入金	2,770,000	2,770,000		第4款	拡張工事費	530,000	475,127	5.0			
第5款	雑収入	100	900		第5款	諸支出金	40,000	30,000	0.3			
第6款	繰越金	10,000	147,341									
歳入合計					10,776,104	11,351,101	129,272	100.0				
					歳出合計					10,776,104	9,415,595	100.0

歳入歳出差引残額 1,935,506円 翌年度へ繰越

特別会計 昭和38年度 間瀬簡易水道歳入歳出決算

歳入					歳出							
科	目	予算現額	収入済額	収入未済額	科	目	予算現額	支出済額	歳出合計に対する割合			
第1款	負担金	60,000	39,345		第1款	施設費	1,206,237	1,057,357	78.9			
第2款	使用料及び手数料	820,800	814,850	2,530	第2款	積立金	50,000	0				
第3款	加入金	5,000	6,140		第3款	公債費	288,200	282,200	21.1			
第4款	雑収入	2,000	3,328		第4款	予備費	2,563	0				
第5款	繰越金	103,200	119,126									
第6款	繰入金	550,000	550,000									
歳入合計					1,541,000	1,532,789	2,530	100				
					歳出合計					1,541,000	1,339,557	100

歳入歳出差引残額 193,232円 翌年度へ繰越

特別会計 昭和38年度 岩室村農業共済歳入歳出決算

歳入					歳出							
科	目	予算現額	収入済額	収入未済額	科	目	予算現額	支出済額	歳出合計に対する割合			
第1款	農作物共済費	2,093,710	850,627	4,119	第1款	農作物共済費	2,093,710	743,139	19.5			
第2款	蚕繭共済費	65	0		第2款	蚕繭共済費	65	0				
第3款	家畜共済費	1,077,938	561,893		第3款	家畜共済費	1,077,938	537,852	14.1			
第4款	業務費	3,029,603	3,671,892	16,968	第4款	業務費	3,029,603	2,525,624	66.4			
歳入合計					6,201,316	4,484,412	21,087	100				
					歳出合計					6,201,316	3,806,615	100

歳入歳出差引残額 677,797円

- 内 法定積立金 55,738円
- 無事戻積立金 27,869円
- 特別積立金 27,868円
- 翌年度へ繰越 566,322円